

1. 件名：使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（増設）の耐震設計に係る面談
2. 日時：令和4年4月27日（水）13時30分～14時55分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
新井安全審査官、高木係長、塩唐松係員
高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当5名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、今後増設を予定している使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の耐震評価方針及びその検討状況について、主に以下の説明があった。
 - 使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の耐震評価について、「原子力発電所施設内での輸送・貯蔵兼用乾式キャスクによる使用済燃料の貯蔵に関する審査ガイド」（以下「審査ガイド」という。）に基づき、乾式キャスクの堅牢性に着目した耐震評価を実施する予定である。
 - 本年8月を目処に実施計画の変更認可申請を予定している。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 変更認可申請の際には、乾式キャスク仮保管設備の主要設備に対する耐震クラスを明確にした上で、既設に対する耐震評価及びその問題点と対応並びに増設分に対する評価内容に加え、改めて審査ガイドを参照しようとしている経緯について、整理して説明すること。
 - また、乾式キャスクの堅牢性に着目した規制基準及び審査ガイドを適用する際には、適用する項目と適用しない項目の対応関係及び適用しなくてよい理由について整理して説明すること。

6. その他

資料：

- 使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（増設）の耐震設計について

以上